

山田大橋をご存知でしょうか？

この橋の下に、コナラを中心とした河岸林の樹林緑地があります。夏には川原のバーベキュースポットになっています。しかし、この緑地の木々は20m前後と樹高が高く、枯損木や樹勢の衰えた木もあります。また、土地の面積と比べると木の本数が多く、それぞれが太陽光を求めて横に枝を張り出し、重心が大きく傾くことで、強風などによる根返り(根株ごとひっくり返る)が心配される状況でした。さらに、川原の地盤ということもあり、石とコンクリートの護岸を根の圧力で破壊し、修理した形跡もあるなどの問題を抱えた緑地ですが、あきる野では珍しく平坦な河岸林なので貴重な緑地です。

かつては、薪炭利用があったので、木が大きく育つこともなく人々の暮らしを支えてきましたが、現在は薪炭利用はなく、木々は大きく育ち、根返りが心配されています。しかし、緑地内には遊歩道や木陰のベンチもあり、毎日のように散歩をされる方がいます。地域では人気の散歩コースといえます。このような樹林緑地の利用者の安全、近隣住宅への被害が想定される緑地をどうするか？



切断面に防腐剤を塗布



大枝をチェーンソーで剪定



強剪定され丸裸になった緑地



かつて木陰になっていたベンチ

安全のために伐採する話もありましたが、この緑地を利用するたくさんの方がいること、珍しい平坦な河岸林であることなどの理由で緑地を残すことが重要と判断しました。緑地を残すため、2017年1月に危険な枯損木と樹勢の衰えた木の撤去、緑地全体の木々の樹体重量を軽減するための強剪定を造園業者にお願いしました。

結果、樹高が低くなり、強風などへの耐性もできて、安全な緑地へと姿を変えました。



剪定が終わって丸裸になった冬季の樹林緑地は、とても情けない姿になりました。しかし、写真をよく見ると切断面の直下に小さな枝が残してあります。

それでも、再生には5～6年かかると思っていたましたが、僅か1年で下の写真のように順調に枝葉が茂り始めました。

早くも緑地内には緑陰が作られ、今年の夏は、木陰のベンチで一休みして涼しい川風を満喫できるようになると思います。



○ 緑を残してゆく ○

樹林緑地は、落葉広葉樹（コナラ、ヤマザクラ、アカシデなど）で成り立っています。かつては、薪炭利用されていた場所と考えられます。現在は、薪炭利用がされなくなって60年以上経過している場所がほとんどで、老齢の域に達しています。そんな樹林緑地が開放され、人々が集う場所になると、老木からの落枝や倒壊（根返り）の危険があるため、伐採するという考えも当然でできます。そんな中、今回の山田の緑地のような対応をしたことで、貴重な緑地を樹林緑地として残すことができました。しかし、これで緑地の管理が終わったわけではなく、利用者の安全のためには、定期的な管理が不可欠になります。特に枯れ枝などの処理は、落枝事故を防ぐ重要な管理になります。

人と森の関わり方は、かつて薪炭利用という形でしたが、近代社会では緑陰などの憩いの場としての利用という形に変わってきました。今は、その変化に対応した緑地のあり方を模索しています。

